

平成20年度における随意契約見直し計画のフォローアップ

平成21年7月

独立行政法人国際農林水産業研究センター

1. 随意契約見直し計画と平成20年度に締結した契約の状況

(単位：件、百万円)

	平成18年度		平成20年度		比較増 減		見直し計画	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(13.3%) 15	(33.0%) 118	(60.9%) 67	(51.7%) 359	(346.7%) 52	(204.2%) 241	(76.1%) 86	(84.2%) 301
企画競争・公募	(0.9%) 1	(1.2%) 4	(10.0%) 11	(4.9%) 34	(1000.0%) 10	(750.0%) 30	(8.0%) 9	(5.4%) 19
競争性のある契約(小計)	(14.2%) 16	(34.2%) 122	(70.9%) 78	(56.6%) 393	(387.5%) 62	(222.1%) 271	(84.1%) 95	(89.7%) 321
競争性のない随意契約	(85.8%) 97	(65.8%) 235	(29.1%) 32	(43.4%) 301	(67.0%) 65	(28.1%) 66	(15.9%) 18	(10.3%) 37
合計	(100%) 113	(100%) 358	(100%) 110	(100%) 694	(2.7%) 3	(93.9%) 336	(100%) 113	(100%) 358

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

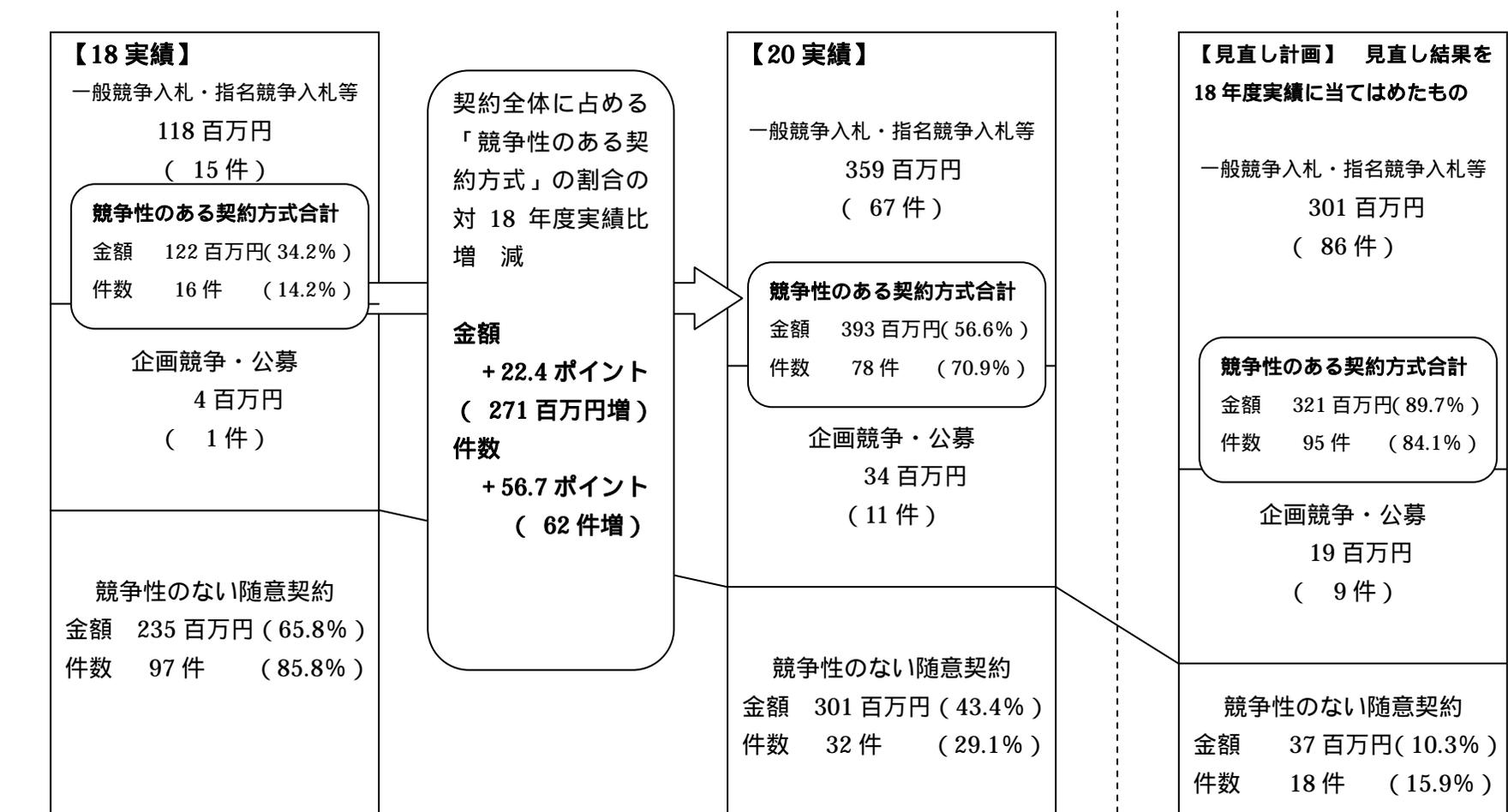
(注2) 比較増 減の()書きは、平成20年度の対18年度伸率である。

(注3) 見直し計画策定時と、20年度契約フォローアップ時とでは調査の定義が異なっている。具体的には、不落・不調の随意契約は、18年度は「競争性のない随意契約」に、20年度は「競争入札等」に整理している。

(注4) 18年度限りで事務・事業を取り止めた随意契約5件、11百万円については、見直し計画においては「競争入札等」に計上している。

(注5) 20年度「競争性のない随意契約」には、国等の企画競争や競争的資金の公募に際し、共同研究グループの中核機関として応募し、外部専門家等の審査の上に採択された後、当該研究グループに所属する機関に対して再委託した11件、198百万円が含まれている。

図表 随意契約見直し計画と平成 20 年度に締結した契約の状況



2. 平成 20 年度において、随意契約から一般競争入札等、企画競争、公募に移行した主な契約

一般競争入札へ移行

(ア) 平成 21 年度電子ジャーナル(サイエンス・ダイレクト)	4 百万円
(イ) 独立行政法人会計システム運用支援業務	4 百万円
(ウ) 招へい外国人研究者居住用住宅賃貸借	2 百万円

企画競争へ移行

(ア) 研究委託(西アフリカ・サハラ地域の資源動態に基づいた土壌肥沃度管理技術の開発と効果の検証)	3 百万円
(イ) 研究委託(いもち病レース評価システムと分類基準の構築)	2 百万円
(ウ) 研究委託(栄養塩による地下水汚染評価モデルの開発)	2 百万円
(エ) 研究委託(マングローブ生態系による水質浄化機能の評価)	2 百万円
(オ) 研究委託(衛星データを利用した降水量分布の把握と降雨条件に伴う土地利用変化の解析)	2 百万円

公募へ移行

(ア) X線光電子分光分析装置保守点検業務	5 百万円
-----------------------	-------

(参考)

1. 契約形態別応札者数(平成 20 年度)

契約形態	一般競争入札		指名競争入札		企画競争		公募	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
2 者以上	48	75%	0	0%	0	0%	0	0%
1 者以下	16	25%	0	0%	9	100%	2	100%
合 計	64	100%	0	0%	9	100%	2	100%

(注) 不落・不調の随意契約については本表に含まれないため、1 の表の「競争入札等」及び「企画競争・公募」の件数と一致しない。

2. 一者応札、一者応募に係る改善方策

(URL http://www.jircas.affrc.go.jp/koukai/cyoutatsu/pdf/1sha_osatsu.pdf)